

Principal Correspondence

創立者とリリーベール綱領

今年は学校法人リリー文化学園創立者、初代学園長大久保久子女史が亡くなって 22 回忌を迎えます。リリー文化学園は創立 74 年目を迎えます。そして、リリーベール小学校は創立して、(一瞬のような気がしますが)何と創立 20 年目を迎えます。



大久保久子は、昭和 24 年に東京の文化服装学院を卒業して、若干 24 歳でリリー洋裁研究所という私塾を水戸市南町に始めました。創業の歴史です。

創立者は常々「人は、能力と人格だけで判断されるべきであり、性別、国籍、年齢、氏素性は関係ありません。」とはっきりと言い、家柄とか門閥、学閥に頼る人にシンパシーを持たない人でした。

先日、テレビのドキュメンタリー番組で、アメリカの亡き黒人の人権運動家であるマーティン・ルーサー・キング牧師が、全く同じことを言っておられて驚きました。「人は能力と人格」という言葉は、普遍の真理だと思います。

創立者は、水戸の国際ソロプチミストを立ち上げたり、戦後茨城県で2番目の女性海外渡航者になり、ニューヨークとパリでファッションを学んだ経験で、国際的な目をもってローカルに行動することを身をもって実践した人でした。

女性であっても自立することの大切さ、男女共にリーダーシップが必要なこと……。ものを創造する大切さ、困難を乗り越えるのは創造性の高い人であること。そんなことを自分の体験から常日頃述べていました。



私(校長)が小学校を創るにあたり想起したのは、まず綱領という形からでした。それも創立者ならこう考えるであろうということでした。

リリーベール綱領

私たちは、人間性を信じ、意義ある人生を求め

未来に役立つ人となるために、

自立の心、創造性、指導力を培います。

Principal Correspondence

プロフェッショナルになるには

よく一つの物事に熟練するには500時間、1500時間、5000~10000時間の壁があると
言われます(無気力の心理学・中公新書・波多野誼余男著)。

例えばピアノを習って初心者が終わる段階で500時間。英語を習ったとして一人で海外に行
ける中級ぐらいなら1500時間。ピアノのプロの演奏者や音楽の先生、英語の通訳や翻訳者な
ら5000時間から10000時間勉強が必要だというわけです。簡単に実力が付く王道はあり
ません。



不思議なことになぜかピアノでも英会話でも1500時間を超えたぐら
いで(それも急に)上手になるとも言われます。

人生趣味で初心者を超えたあたりで楽しむなら、スポーツでも、音楽
でも、外国語でも、アートでも500時間の投資をして、10種類でも20
種類でも造詣を深めることは可能です。豊かな生活の手法です。

しかし一芸に秀でてその道のプロになるなら5000時間以上時間を
つぎ込まなければなりません。

「石の上にも三年」と言いますが、何かの道に一日8時間つぎ込ん
で、年に250日働くとすれば、3年で6000時間。いっばしのプロに
なるのはそういうことなのだ納得です。

最近では、若者がすぐ離職するというのを聞きますが、ある程度の
時間をかけなければ、すぐに実力はつきません。

「この仕事は合わない」と言ってすぐに辞めてしまわずに(実力が急
につく時期を超えて)最低3年は頑張ることも必要でしょう。



最後に、「天才」を調べた研究(超一流になるのは才能か努力か・文芸春秋・エリックアンダーソ
ン著)を読みましたが、超一流の人の練習に費やす時間は、一流の人の2~3倍であったと言
うことでした。

人生バランスよく暮らすことも、天職に奉じて人生をかけるのもそれぞれの生き方です。
ただし「いっばしのプロフェッショナル」であることは幸せの条件の一つではあります。

